

チャレンジコミュニティ



Challenge Community Club

通信 第49号

2023.3 vol.49



サッカーワールドカップ
時の東京タワー



六本木ヒルズ毛利庭園の桜(2022年)



みなと区民まつり



第6回学ぶ会



CCクラブまち歩き



2022年度活動報告会



パイプオルガンレクチャー
コンサート長谷川美保先生

CONTENTS ■ごあいさつ

港区高輪地区総合支所 協働推進課課長 中村 美生
明治学院大学 総合企画室次長 一瀬 暁之

■CCクラブ 2022 年度活動報告会

■2022 年度CCクラブ活動報告

■ホームページ部会の活動とホームページの内容紹介

■地域CCクラブ活動紹介

■運営委員会報告・活動計画

皆さんのつながりで地域に新しい風を！

■港区高輪地区総合支所 協働推進課課長
中村 美生

昨年4月から高輪地区総合支所協働推進課に着任し、この一年間、チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんの活動を間近で感じてきました。クラブの皆さんや活動に参加している地域の方々の楽しそうな笑顔を見ると、微力ながら活動を支援させていただいていることをとても嬉しく思います。積極的に活動をされている皆さんに心から感謝いたします。



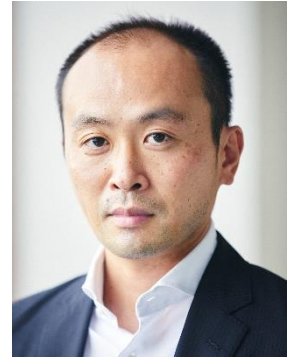
この間、河合先生が65歳以上の一人暮らしが一番多い都道府県は東京都であり、地域でのつながりが重要であるとお話をされていました。当課では、高輪地区にお住いの方を対象に区民意識調査を実施していますが、その中で、近所づきあい・交流はどの程度ありますかと尋ねたところ、平成28年の調査では、回答者の内約56%が、近所づきあいが無い、もしくは、挨拶を交わす程度という結果でした。令和元年度の調査ではその割合が約70%に増えていました。高輪地区では高層マンションが次々と建ち、人口は増加傾向にあります。残念ながら、地域でのつながりが薄くなってきている結果となりました。

しかし、このチャレンジコミュニティ・クラブは700名を超える会員が所属しており、新たなつながりが広がっています。また、コロナ禍を経験し、デジタル化が皆さんの活動にも浸透し、対面だけに限らない、新しいつながりの創出にも挑戦しています。このような皆さんの面的なつながりが、なかなか行政が把握しづらい問題に気づききっかけや様々な人同士をつなぐ橋渡しとなり、いとも簡単に、そして、スピーディに地域の問題を解決してしまうのではないかと私は思っています。今後も、港区のめざすまちの姿である「誰もが住みやすく、地域に愛着と誇りをもてるまち・港区」の実現に向けて、共に歩んでいきたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

港区の皆様とともに

■明治学院大学 総合企画室次長
一瀬 暁之

チャレンジコミュニティ・クラブの皆様。2022年4月に明治学院大学総合企画室の次長に着任しました一瀬暁之と申します。これからも港区との連携推進を担当している社会連携課を通して、皆様の活動に少しでもお役に立てれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



港区の魅力は、チャレンジコミュニティ大学そしてチャレンジコミュニティ・クラブの活動を通じて、そこに住み、地域のリーダーとして活躍する皆様が高めていっているものだと思います。

実は私自身も遠い昔、港区白金で子ども時代を過ごしました。当時は三光小学校・朝日中学校（現在の白金の丘小学校・中学校）に通い、白金の町の至る所を自転車で走り回り、ボール遊びをしたものです。現在では大きく変わったところもあるかと思いますが、「街の優しさ」は、変わることなく続いているのかなと感じています。そして、その優しさを感じる根本は何かというと、やはりそこに住まわれる皆様の、地域のために活動される熱意があつてこそだと思っています。

チャレンジコミュニティ大学を受講された皆様には、明治学院大学の教育資源をただ座学で学ぶだけでなく、ご自身の地域課題と結びつけながら学んでいただきました。それを経て、現在たくさんの修了生の皆様が港区というフィールドで活躍されていることを、とても嬉しく感じています。

明治学院は今年で創立160年を迎えます。横浜で始まった英学塾（ヘボン塾）から、いくつかの地を経てこの白金に来て、港区の皆様と共に歩んでまいりました。たくさんの学生たちがこの街の皆様にお世話になり、成長させていただいております。大学のキャンパスが街にあるということ、迷惑ではなく、誇りに思っただけであればと願っていますが、そのためにも大学はこれからも、地域の皆様とともにチャレンジをしていきたいと思っております。

CCクラブ2022年度活動報告会

2022年度活動報告会は、未だコロナウイルス禍は収まっていない中でしたが、この3年間ウイルスの対処方法を学んできたことをもとに、リモートのみの開催でなく会員を会場に迎え、対面中心で開催しました。2月18日(土)第一部は13時30分～15時10分で明治学院大学3101教室での活動報告会、そして第二部は「第8回学ぶ会」として、15時20分～16時40分で、明治学院大学白金キャンパス礼拝堂でパイプオルガン・レクチャーコンサートを開催しました。参加者は来賓の方が10名で、CCクラブ会員はリモートと会場合わせ75名でした。

代表と来賓の挨拶

活動報告会は太田則義副代表(7期)の司会で始まり、冒頭にCCクラブ代表が挨拶し、来賓の方より挨拶をいただきました。

CCクラブ石川啓子代表(8期)からは、本日の活動報告会は対面中心で開催できることに喜びを感じるとともに、多くの来賓の皆様そして会員の方に参加いただいたことに厚く御礼申し上げます、との言葉がありました。又、今年度のCCクラブ活動に協力いただいた港区、明治学院大学、社会福祉協議会、ラクっちゃ、ういケアの皆様へ感謝しますとの挨拶がありました。

明治学院大学副学長永野茂洋様からは、2022年度CC大学がコロナ禍で苦心しながらも無事に全授業を終えることができる、又今後は世の中の変化に対応した防衛を考えながら活動してゆくことが肝要とお言葉でした。

港区高輪地区総合支所長山本睦美様からは、コロナ禍でも工夫して活動を続けるCCクラブに対する評価とみなと区民まつり等の行事への協力に対する感謝などの挨拶をいただきました。



運営部門報告

チャレンジコミュニティ・クラブ代表 石川啓子

(1) 2022年度概要

現在の会員数は702名(芝地区111名、赤坂・麻布・青山地区165名、高輪地区278名、芝浦・港南地区135名、その他地区居住者13名)です。一方任意加入の地域CCクラブは芝CCクラブ80名、明虹会115名、高輪地区CCクラブ217名、3Aクラブ131名です。運営方針と活動テーマはコロナの感染状況を判断しながら、日常を取り戻す活動を推進し地域活動を支援することとした。活動概要として、CCクラブ内のコミュニケーションを良くし内外の交流を推進し、又地域CCクラブ活動については独自性を尊重し且つ自主グループ活動について支援できることはクラブ全体で考え支援しました。



(2) 活動実績

運営委員会では多くの運営委員が活動に協力しましたが、一方、運営委員会に恒常的に参加しない委員もいたことは残念でした。5つの部会活動についてそれぞれのテーマを紹介しました。続いて年間の活動に移り、定期総会(書面議決報告会)、ホームカミングデイ(講演会)、第6回から第8回の学ぶ会、企画部主催CCクラブまち歩きでは「海で生きる～本芝浦・金杉浦の漁業史」の場所を歩きました。明治学院大学との連携では、1Day for Othersを始めとした活動、港区社会福祉協議会のオンラインツール講座での連携を始めとした港区、港区社会福祉協議会(港社協)、港区立介護予防総合センター(ラクっちゃ)、港区立がん在宅緩和ケア支援センター(ういケアみなと)とのつながりについて説明し、報告を終わりました。

地域CCクラブ活動報告

芝CCクラブ

新井隆治（3期）

活動は10年以上継続実施しています。登録者80名で月一回の定例会とLINEの連絡網で区の情報共有をしています。芝みたまち倶楽部年4回、花の世話するアドプト活動3つの花壇、パーキンソン友の会支援は月に1回程度行いました。コロナ禍で実施できていなかった新年会・納涼会・芝ふれあいまつり参加等は2023年度には再開すべく工夫していきます。



明虹会 斎藤正精(6期) 内田真也(13期)

協働・参画という形で、ベイエリア・パワーアッププロジェクト、アイプラお手伝いに計画の段階から参加しています。又、独自企画として、東京湾見学ツアー・講演会「芝・愛宕下の大名屋敷」「口腔ケアとフレイル予防」を開催し、又「港区ウクライナ避難民チャリティーコンサート」をお手伝いしました。



高輪地区CCクラブ 太田則義（7期）

高輪地域と他地域を含めた7地域の連絡網で「コミュニティカフェだより」をはじめとして随時情報伝達をしています。三つのコミュニティカフェを中心に地域のつながりを大切に実施しています。ボランティア活動としてはフードドライブとかんがりの実施と高輪地区生活安全・環境美化協議会に加入し2回のパトロールに参加しました。



3Aクラブ

野村知義（8期）

創立2013年、今年で10年がたちます。コロナ禍で好評であった毎月開催のサロン活動・麻布支所と連携のおつかい大作戦等々中止せざるを得ない状況でしたが、総会・定例会・幹事会・役員会は随時開催しておりました。地域愛と笑顔と連携、関係する公的機関との連携・協働活動を大切にしてきました。コロナ収束後は元の活動の形に戻し、社会に寄与できるような活動にすることを考えています。



自主活動グループ活動紹介

一八会 活動報告

山崎範夫（8期）

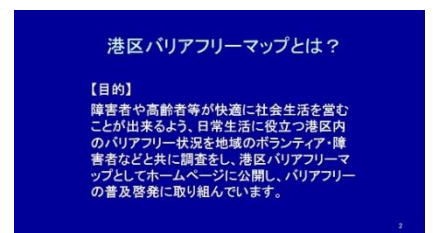
CC大学2014年度8期第1グループのCC大学修了後の活動報告です。「在学中から4つの地域を知る事、終了後に地域とどうかかわりを持つか」をモットーにしており、「終了後は、毎月第3火曜日に定例会開催」続けております。この定例会継続の秘訣は「楽しく・面白い事、身近なことから始め、そして難しそうなことにトライする」です。主な活動は、「まなマルシェに参加」「ダーツの会」「花見会開催やコンサート聴講の企画」「区民まつりへの協力」さらに「スポGOMI&ラクツチャへの参加」と多岐にわたります。「継続は力なり」であり、これからも仲間を大切に活動続けたい。



バリアフリーマップ作成事業 岩佐徳太郎（9期）

港区社会福祉協議会 峯岸理恵子

港区バリアフリーマップ作成事業は、平成14年より港区がスタートしたもので、港区から委託を受けて港区社会福祉協議会が行っております。



バリアフリーマップとは、高齢者・障害のある方・乳幼児をお連れの方等が安心して外出できるよう、地域のボランティア・障害者の方々と共に港区内の公共施設や交通施設・道路・公園・公衆トイレ等のバリアフリー設備等を実地調査し、区内のバリアフリー設備の情報をホームページに公開し、バリアフリーの普及啓発に取り組んでいます。

港区バリアフリーマップに掲載されている情報は、①施設やその周辺道路のバリアフリー状況②おすすめコース（誰もが楽しく安心して外出できるよう街歩きのコース紹介）③音声道案内（主な区有施設等への行き方を音声により案内）であり、港区へ報告しています。

この活動は、月に1、2回程度、実際に車いすに乗りながら、歩道の幅（車いす、ベビーカーが通れる幅）を測定し、坂道の角度、音響信号、点字ブロックの敷設、多目的トイレなどの有無等を現地調査する活動です。

本調査の特長としては、体験による実態と必要性の認識、体験による介助の仕方理解、成果を実感できることです。



最後に明治学院大学名誉教授CC大学統括ディレクター岡本多喜子先生から「コロナ禍でも地域の活動や自主活動が活発に行われている様子が分かりました。今後もコロナに気を付け活動しましょう」と講評をいただき活動報告会は15時10分に終了しました。

活動報告会の資料はホームページ会員サイトに掲載されています。

パイプオルガン・レクチャーコンサート (第8回学ぶ会)

レクチャーコンサートは15時20分より企画部会長阿部令子さん(10期)の司会で始まりました。

冒頭、明治学院大学総合企画室社会連携課山田真嗣課長が長谷川美保先生のプラチナカレッジ企画の紹介をし、続いて明治学院大学名誉教授CC

クラブ顧問河合克義先生が長谷川美保先生の経歴を紹介し、レクチャーコンサートが始まりました。

パイプオルガン・レクチャーコンサート 講師・演奏者 明治学院音楽主任者

長谷川 美保先生

レクチャーは明治時代に西洋音楽が伝えられた様子から始まりました。

明治時代、師範学校や尋常小学校に、外国より先生を迎え、教えていただきました。キリスト教

を教える宣教師たちと奥さんが、船に小さなリードオルガンをのせて布教活動をしました。英語を学びにきた大人は、全く音楽が分からず、日本人は音痴でリズムがとれない、と宣教師日記に記録されています。

レクチャー後、長谷川先生は後方2階のパイプオルガンに移りコンサートが始まりました。

コンサートで演奏された曲目は次の曲です。

♪コラール「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147 (J.S. バッハ) ♪唱歌と讃美歌「しゃぼん玉」と「主われを愛す」♪唱歌と讃美歌「蛍の光」と「めさめよ、わが霊(たま)」♪日本で生まれた西洋音楽「椰子の実」「赤とんぼ」♪オルガン協奏曲 へ長調 Op. 4-Nr. 5 (G.F. ヘンデル) ラルゲット/アレグロ/シチリアーノ/プレスト ♪メサイアより「ハレルヤ！」(G.F. ヘンデル) ♪トッカータとフーガ 二短調 BWV565 (J.S. バッハ)



演奏の合間にパイプオルガンの説明が2階のオルガンの近くからあり、演奏後に質疑応答があり、最後に石川代表が謝辞を述べ、レクチャーコンサートは終了しました。コロナ禍のこの時期に心温まるレクチャーコンサートでした。

2022年度CCクラブ活動報告

第6回学び会(7月13日)

日時：7月13日(水) 14:00～16:00

場所：白金台ゆかしの杜 港区区民協働スペース
講演と意見交換の会

テーマ：コロナ禍に於ける地域活動の課題と対策
参加者：会場 27名(含スタッフ)とリモート(Zoom) 6名、CC大学15期生4名が会場に参加。

司会を阿部令子企画部会長が務め、石川啓子代表の挨拶で始まりました。

基調報告

港区社会福祉協議会地域福祉係長 加藤三奈様

1. コロナ禍で起こったこと

未知の感染症に対する恐怖として不要不急の外出自粛があったが、ウイルスの影響が少しずつ分かり、感染症対策ガイドラインの発行、感染症対策研修を開催した。活動再開の周知としてはウイルスとの共存した活動を再開したが、感染者が増加すると休止する状況で、活動が終了してしまうケースもある。



2. 港区高齢者の社会参加を取り巻く状況について
出ることの楽しさに気付いている人に対しては、楽しむための企画の提案や、ロコミ・背中を押す人になってもらう仕組み作りのアプローチをしている。

一方、出ていたのに出なくなった人に対しては、出ることの不安を取り除く支援と背中を押すための方法を実践するアプローチをしている。

また、出てこない人には近隣の人に相談機関があることを知ってもらうことや見守りの体制を作る(関係機関、民生委員との連携)アプローチをしている。

最後に加藤様から「CCクラブ各期・各活動のメンバーとして、個人としてどう行動しますか」との投げかけがあった。

港区立介護予防総合センター副センター長

栃堀賀江様

1. 港区立介護予防総合センター ラクっちゃんの施設の利用内容と5つの柱の説明

2. コロナ禍での状況
3. 介護予防総合センター登録団体の紹介
4. 令和3年度介護予防に関する意識調査結果から見えてきたこととして、要介護に移行する可能性のある人が増加している。外出自粛による活動機会の減少や外出の回数が減ったことが原因である。
5. 介護予防・フレイル予防につながる健康長寿のための3本の柱



- ・栄養(食・口腔機能)
- ・身体活動(運動、社会活動など)
- ・社会活動(就労、余暇活動、ボランティア)

6. 介護予防の「きょういく」と「きょうよう」
きょういくとは今日も行くところがある(居場所がある)こと、きょうようとは今日も用事がある(出番がある)こと、そしてちょきん(貯筋)動けるカラダです。

7. ラクっちゃんの地域活動の支援専門職派遣
専門職が地域活動(地域の居場所)に出向いて介護予防の普及啓発を行う。

8. 介護・フレイル予防 好循環の連鎖反応
介護予防リーダー・サポーターが周りの人と一緒に元気になり港区全体が元気になる。
行政は支援者であり、住民が主役です。

地域の居場所づくりが大切!

講演後の参加者からの活動紹介

- ・白金台いきいきプラザでの麻雀サロンのコロナ禍での活動状況(5期大竹裕さん)
- ・コロナ禍での読み聞かせ活動の再開状況(2期久津弘子さん)
- ・高層マンションでの活動(13期内田夕貴子さん)
- ・こども食堂の活動(15期伊藤喜子さん)
- ・3Aクラブの活動(6期及川廣子さん)
- ・高層マンションサロン活動と広域サロン活動(12期平田渥美さん)
- ・コロナ禍で再開したコミュニティ・カフェ高輪活動(7期太田則義さん)

活発な意見交換があり、最後に明治学院大学河合克義名誉教授と、岡本多喜子名誉教授より講評があり閉会となりました。



挨拶する河合先生と多く集まった会場の会員

第7回学ぶ会(10月5日)

日時：10月5日(水) 14:00~15:30

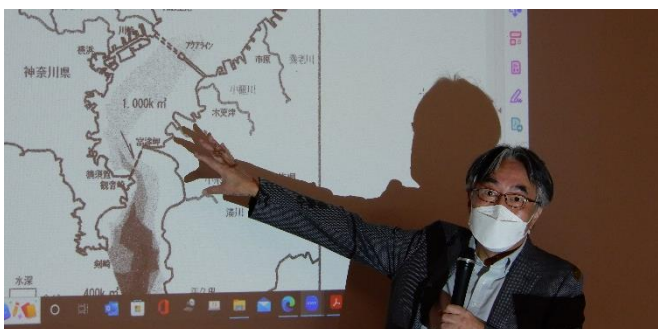
場所：白金台ゆかしの杜 港区区民協働スペース

講演者：元港区教育委員会学芸員 高山優様

テーマ：海で生きる～本芝浦・金杉浦の漁業史

参加者：会場28名(含スタッフ)、リモート(Zoom)9名、今回もCC大学15期生が会場とリモートで参加しました。

前回同様に阿部令子企画部会長の司会で始まり、石川啓子代表の挨拶、河合克義CCクラブ顧問(明治学院大学名誉教授)より高山優様の紹介がありました。講演会は、先史時代の東京湾の様子から、江戸時代には金杉浦から幕府へ鮮魚を献上していたこと、漁法や漁獲物、さらには今後の内湾との関わり方といった多岐にわたる幅広い内容でした。



地図の前で説明する高山優先生

講演内容

I 東京湾

1. 東京湾とは 2. 東京湾内湾の地形と地質
3. 東京湾形成史 4. 東京湾内湾と「江戸前」

II 本芝浦・金杉浦の漁業史

1. 前史①—先史時代 2. 前史②—古代・中世
 3. 本芝浦・金杉浦の起こり—近世初期
 4. 本芝浦・金杉浦と「御菜八か浦」—近世前期
 5. 本芝浦・金杉浦の停滞と衰退—近世中・後期～明治期
 6. 漁業補償へ—大正期以降
- III 本芝浦・金杉浦の漁具・漁法と漁獲物
1. 貝塚を覗く 2. 近世・近代の漁具漁法
 3. 38 職の制定 4. 本芝浦・金杉浦の主な漁業
 5. 漁場と漁職
- IV 「海で生きる」から「海と生きる」へ—本芝浦・金杉浦のこれからと漁業—

講演後には会場とリモートで質問が出され高山先生から丁寧な回答がありました。最後に河合先生から講評があり、次回のまち歩き案内があり学ぶ会は終了となりました。

(講演の詳細内容は企画部会に問合せ下さい)

企画部主催CCクラブまち歩き(11月16日)

11月16日(木)10時にJR田町駅に集合した参加者33名とスタッフ11名が3つのグループに分かれ、今回の企画をしていただいた「芝の語り部」のCCクラブ会員3名の方(6期川上利春さん、8期宮下玲子さん、12期中嶋博さん)の引率にまち歩きがスタートしました。

コースは次の通りです。

田町駅東口→放送記念碑→雑魚場跡→御徳鹿島神社→みなとパーク芝浦(旧東京瓦斯芝浦工場)→伝統文化交流館→旧芝橋(本芝・金杉浦の魚市場)→重箱堀→シーバンス(休憩、トイレ)→旧東京芝浦製作所(再開発)→金杉橋→東京ガス発祥の碑→竹芝ふ頭(集合写真)→東京ポートシティ→浜松町駅

天候にも恵まれて楽しく歩き、竹芝ふ頭では青空の下で記念撮影。語り部さんからの分かりやすい説明を聞きながら、身近にある港区の歴史や文化に気付く一日となり、皆さまからのアンケート結果も好評をいただくことができました。



竹芝ふ頭で3グループが集合し記念撮影

みなと区民まつり(10月8日～9日)

CCクラブでは、みなと区民まつりに4月に登録し準備を進めました。4年振りに開催されることもあり、企画部会を中心にアイデアを募り、運営委員会を含め多くの方の協力を得て当日を迎えました。

CCクラブの展示スペースは例年とほぼ同じ芝公園東側入門ゲートの近くにスペースを確保することが出来ました。

展示についてはCC大学紹介、CCクラブ紹介と4地域CCクラブの紹介をA1判とA2判パネルで準備しました。

そして今回の最大イベントとして来場者に「港区知ってる?クイズ」を用意し、回答者には記念品を渡すことにしました。この計画は企画部会が中心となり、一八会(8期1グループ)と連携して進められ、記念品収集には多団体の協力をいただきました。

当日運営については運営委員、企画部会員、一八会、地域CCクラブを始め約50名の会員が協力しました。

10月8日(土) 11:00～17:00

初日の準備は開始前の1時間前から始め、スタッフは30分前に集合し、11時のオープンを迎えました。



開始前に準備が完了しマスクを外し記念撮影

開始早々から来場者がテント前に来て3種類の用意したクイズのうち1枚を渡し3問に回答していただき、最後に記念品を渡します。



スタッフが丁寧に回答の解説

来場者が多く、2時間程度で300人がクイズに参加し初日のクイズは終了しました。



午後のスタッフが集合

10月9日(日) 10:00～16:00

2日目は10時からスタートです。



2日目のスタッフも順調に集合

午前には武井雅昭区長が訪れ、スタッフと談笑されました。



2日目もクイズは好評で午前中には予定した300個の記念品がなくなり、2日間で600名を超える方がクイズに参加していただきました。



午後はスタッフ同士の会員交流

CCクラブ会員と区民が交流できる良い機会でした。スタッフの皆さま、有り難うございました。

港区社会福祉協議会と(株)JALインフォテック オンラインツール講座 協力

2021年度に開催した主催港区社会福祉協議会、講師(株)JALインフォテック・ネットワークサービスグループの「プロに学ぶ!オンラインツール講座2022」が今年度も行われ、CCクラブ企画部会が企画段階から当日運営まで協力しました。

講習会は以下のテーマで行われました。

11月28日(月) 13:30~15:20

- ① パスワードの設定方法や、Zoomの便利な利用方法
- ② 無線AP(Wi-Fi)購入時のポイント、最近のフィッシング詐欺について

12月6日(火) 13:30~15:20

- ③ デジタル断捨離のススメ
- ④ SNSアプリについて知ろう

※参加型講習形式

この講習会にあたっては、7月から3者で打ち合わせを始め、開催形式、テーマとそれぞれの役割を検討し実現しています。

CCクラブ企画部会の役割はテーマを提案し、内容についてJALインフォテックから出されたものを検討し修正を行います。当日の運営については会場受付、参加者の会場への案内を行いました。役員と企画部会が運営に参加しました。

講習会には各回ともに会場参加者30~32名、リモート参加者18~21名で、60名をこえる方が参加されました。

生活を便利にするインターネットやメールやSNSですが、使い方が分からないとか、不安に思う場面も多いと思います。そういった基礎的な疑問に答える講座です。今年で2回目となり、講師の方々の尽力で、一層充実した内容となりました。



会場の芝コミュニティはうす(芝区民協働スペース)

なかの生涯学習大学ICTチーム交流会

1月23日CCクラブと同様の活動をしている、なかの生涯学習大学チームICTと3年振りにリモートで意見交換会を行いました。CCクラブICTお助け隊6名と、なかのチームICTの6名が参加、積極的で熱い意見交換の2時間となりました。

なかの生涯学習大学は、55歳以上の区民対象、各学年200名の3年制で現在50期生です。チームICTは、コロナ禍でもリモートで受講できるようにZoomの普及と、ライン等を利用した仲間作りの手助けを目的として、中野区が現役生に協力を依頼、発足し活動している組織です。チームICTは現在32名(お助け隊16名とお誘い隊16名)で構成され、受講者へ週2回の初心者向け相談会、サロン、Zoomでの定例会など活発に活動しています。熱心な活動の様子は、大変参考になりました。



リモートで参加したメンバー

ういケアみなと 折り紙講座 協力

港区立がん在宅緩和ケア支援センター(ういケアみなと)が主催しCCクラブが協力して、「季節を楽しむ折り紙教室」が1月28日(土)午後で開催されました。テーマは邪気を払い無病息災を願うための節分の『鬼』作りです。

講師はCCクラブ中村喜美子さん(7期、芝CCクラブ)で、当日は芝CCクラブから1名と企画部会員・役員7名がサポート役で参加しました。中村さんの周到的な準備と丁寧な指導で、皆さん可愛らしい鬼を作り上げました。



親子の組(手前)と高齢者の折り紙をサポート

1Day for Others (明治学院大学連携活動)

地域連携部会では2019年度から始まった明治学院大学ボランティアセンターで行われている1Day for Others (1日だけのボランティア体験活動)をCC大学現役15期生対象(明治学院大学社会連携課と連携)と明治学院大学生対象(同大ボランティアセンターと連携)に行いました。

CC大学15期生対象 1Day for Others

今年度もCCクラブ会員から自主活動グループの協力募集をし、5グループの協力を得て実現しました。今回応募があったグループの他に認定NPO法人プラチナ美容塾からも協力がありました。

①プレーパーク(みなと外遊びの会)

10月24日(月)に高輪森の公園で体験会が行われて1名が参加し、スタッフから活動内容の紹介や子どもの遊びを体験しました。当初の予定は午前中だけでしたが、参加者は終日子どもたちとの楽しい時間を共有しました。

②なぎさサロン(港区広域サロン)

11月10日(木)午後から行われた芝浦協働スペース会議室でのサロン活動に1名が準備から終了までスタッフの皆さんと一緒に活動を体験しました。この日はラクっちゃから講師が参加したサロンで楽しい会でした。



③みなとパーキンソン友の会支援活動

11月13日(日)港区障害保健福祉センター(ヒューマンぷらざ)にて行われたみなとパーキンソン友の会定例会支援活動にCCクラブ会員と一緒に2名が参加し、支援活動を行いました。参加者の1名の方はその後も継続して支援活動に参加しています。



④港区バリアフリーマップ作成事業

昨年に引き続き候補日を3日設定し、その一つに1名の方が参加しました。11月17日(木)田町駅に集合し、芝浦の水辺地域から最終地点の札ノ辻スクエアまでの約2時間30分間を車いす体験と道路状況調査をしました。この会には昨年度参加した14期生が継続的に参加しています。

明治学院大学生対象 1Day for Others

2021年度はコロナの影響で実施できなかった明治学院大学生対象の1Day for Othersが春から限定的に再開されました。

①港区バリアフリーマップ作成事業

5月26日(木)に高輪地域の活動に3名が参加しました。車いすや白杖の体験をしながら、明治学院大学前から高輪1丁目までの往復コースで道路調査を行いました。

11月30日(水)には学生3名とボランティアセンタースタッフが神谷町駅に集合し、愛宕地域から慈恵医大近辺、御成門駅を經由し、神谷町に戻る約2時間コースを車いす・白杖体験と道路状況調査をしました。学生にとっては車いすや白杖体験は当事者の立場で考えたり、この事業の必要性を感じる機会になりました。



②プレーパーク(みなと外遊びの会)

11月20日(日)と11月27日(日)の両日に高輪森の公園で体験会が行われ、3名と2名の学生が参加しました。スタッフから活動内容の説明後に1日中子どもたちと一緒に遊びを体験しました。それぞれの日の参加者にとっては地域活動に関心のある学生もいて、良い体験になったようです。



③昔遊び継承活動

12月12日(月)の昔遊び練習会(1月の赤羽小学校昔遊び授業に参加)に学生1名とボランティアセンタースタッフが参加しました。高齢者と一緒になりコマ回し、けん玉、お手玉を経験しました。



昔遊び継承活動

2021 年度運営委員会で 2022 年度の活動計画が検討され、その一つのテーマを「昔遊び継承活動」として、地域連携部会で推進することになりました。

この活動は私たち高齢者が子どもたちに経験した、お手玉、けん玉、コマ回しなどを子どもたちに伝える、多世代交流を図る活動です。

お手玉作成サロン活動

活動の最初は道具作り活動で、地域連携部会員が白金台いきいきプラザと相談し、お手玉を作るサロン活動を行いました。6月9日にはCCクラブ会員11名と地域の方2名の13名、7月7日にはCCクラブ会員6名と地域の方2名の8名でお手玉作り活動を行い約50個を作成しました。先生は地域の方にお願ひしました。



お手玉作成サロンと完成したお手玉 昔遊び練習会とめんこ作り

練習会はコミュニティ・カフェ高輪 in ゆかしの杜で始まりました。カフェに来た地域の方も加わり地域連携部会員や10期の方などが中心に数回行いました。12月12日(月)には芝コミュニティはうすで役員、赤羽小学校PTAの方と明治学院大学生も加わり練習会と「ひっくりカエルめんこ」を製作しました。



赤羽小学校授業参加活動

めんこ作成

赤羽小学校からの要望があり実施した小学1年生対象の「昔遊び授業」を4年ぶりに1月17日(火)10時30分から12時にて体育館で行いました。対象は小学1年100名と幼稚園児20名で、当日はCCクラブ会員18名、明治学院大学生とボランティアセンタースタッフ3名、PTA役員5名と地域の方2名が参加しました。コマ、羽根つき、



お手玉と羽根つきコーナー

お手玉、けん玉、メンコを1種類各10分で3つの遊び体験する形で3回の時限で行われました。

子どもたちは珍しい遊びを楽しく経験し、参加した私たちも元気を吸収できる会でした。授業の目的でもある多世代交流が明治学院大学生も含め実現しました。



大人も苦戦したけん玉のコーナー

このゆび、と～まれ発信

このゆび、と～まれ」は地域活動を運営するグループが参加者を募集する情報提供紙でしたが、2022年度は運営協力ボランティアを募集することを目的として配信しました。従来は紙媒体で提供していましたが、常時情報を更新できる利便性と費用の削減を考えデータ配信にしました。会員75%が登録している一斉メールで配信し、同時にホームページに掲載しています。

2022年度掲載したグループは次の通りです。

①白金台いきいきプラザ麻雀サロン運営ボランティア募集！②コミュニティ・カフェ高輪③日本語ボランティア募集！④認定NPO法人プラチナ美容塾⑤NPO法人みなと外遊びの会⑥みなとパーキンソン友の会支援活動⑦昔遊び継承活動。

詳細はCCクラブホームページCCC広場(会員専用)＝CCクラブ会員サイト⇒クローズアップCC(このゆび、と～まれ)をご覧ください。

アクティブシニアのライフストーリーを聞く

米永 栄一郎（1期）

昨年9月より10月にかけてCCクラブ1期生6名が掲題プロジェクトに参加した。明治学院大学の岡本先生の後任で社会学部社会福祉学科準教授の金先生とソーシャルワークコースの3年生10名との会合であった。CCクラブよりは飯塚、岩村、古橋、八木、吉田、米永の6名で吉田さんにはこの会のコーディネーターをしていただいた。学生側の参加者10名（女性9名、男性1名）は第1回のオリエンテーションで自己紹介をして、学生2名、シニア1名の5グループに分けられた。①仕事、②人生で最も印象に残っていることが今の生活にどのような影響を与えているか、③人生の転機のきっかけ（就職、仕事、結婚等）、④今の自分と同じ頃に考えていたことが将来の通りにいったか、違う仕事に就いたか、⑤人生のなかの趣味、がテーマであった。第2回はライフストーリーインタビューでグループ毎に誕生から現在に至るまでの出来事のインタビュー、これからの生活の目標などが話合われた。第3回目は学生による発表、シニアによるコメントがなされた。

今回のプロジェクトの趣旨は「社会福祉援助職を目指す学生のコミュニケーション・アセスメント能力を身に着ける、地域で暮らすアクティブシニアと関わる事で多様な高齢者像を知ると共に高齢者が生きてきた時代・社会的背景を理解する」ということであった。最終日の学生のプレゼンテーションにおいて、我々が生きて来た時代背景につきデータも交えて良く調査されていたのには感心させられ、私としても久しぶりに来し方を振り返る良い機会であった。今回は時間の関係もあり、それぞれのプレゼンテーションで終わったが、フリーディスカッションの機会があればと思っている。



後列は参加した学生たちと金先生（向かって右）

CC大学 16期生募集協力

チャレンジコミュニティ大学の募集については港区が毎年12月に募集案内を行い、1月末日を締め切りとしています。

2021年度募集までは案内は広報みなとや港区掲示板を中心にCCクラブ会員の口コミで行われていましたが、2022年度15期生募集には新しく港区4か所での事前説明会が行われました。

2023年度第16期生については広報みなと12月21号で募集案内と説明会が告知され開催されました。今年度は下記の日程で開催され、CCクラブからは代表、副代表と各地域CCクラブの方が参加し、河合先生、岡本先生の挨拶後CC大学の説明を高輪地区総合支所中村課長がしました。その後CCクラブと各地域CCクラブの説明を行いました。各会場ともに質問が出され熱心な説明会でした。



芝コミュニティはうすでの説明会

1月13日（金）14：00～15：00 芝コミュニティはうす 芝CCクラブ代表と役員が参加。

1月14日（土）14：00～15：00 高輪区民協働スペース 高輪地区CCクラブ代表と幹事が参加。

1月17日（火）19：00～20：00 赤坂区民センター 3Aクラブ代表と役員が参加。

1月18日（水）10：00～11：00 芝浦区民協働スペース 明虹会代表と役員が参加。

説明会に参加した方は合計45名でした。



HUG高輪区民協働スペースでの説明会

ホームページ部会の活動とホームページの内容紹介

部会の活動紹介

ホームページ部会は、今年度CC大学14期の卒業生を迎え、6名の会員で活動しています。今年、コロナの中で専らWebでの開催となっていた例会を集合開催とし自粛していた活動を少しずつ再開した。また、会員から同期のメンバーとの情報交換の場として、HPを利用しその時々活動を同期のメンバーに知らせたいとの要望で、月1回HPへの情報アップ作業について研修を行っている。

ホームページへの投稿は、記事、写真、投稿者の氏名、期などを以下のメールアドレスへ送信して頂ければ、部会のメンバーが体裁を整えてアップします。

Mail : ccc.hp.2021.fuku@gmail.com マテ



部会メンバー

地域への情報発信と会員の情報交換の場として活用

1. 各種活動のアーカイブ

【一般サイト・会員サイト】

- ・ccクラブ広報誌「CC通信」を発行時に掲載(2008.8創刊)
- ・活動報告会での部外講師等による講演の記録
- ・地域活動便り「クローズアップCC」
- ・地域での活動グループの記録「このゆび、と〜まれ！」



このゆび、と〜まれ!

- ・東京都港区チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書(2019.7発行)



【会員サイトのみ】

- ・月別、掲載順にCCクラブの活動を記録(2012.12以降)
- ・各期毎の活動記録(グループ活動を含む)
- ・各地域CCクラブ毎の活動記録



港区の大名屋敷についての講演模様

芝の語り部12期中嶋さん



折り紙教室7期中村さん



港区地区版検討分科会への参画
6期齋藤さん、
10期岡部さん



美容ボランティア講座模様

NPO法人プラチナ美容塾
4期伊藤さん



「根津美術館鑑賞と庭園の紅葉散策」
9期3G



「港マジック同好会」
5期杉山さん6期佐藤さん



「スポGOMI INみなと」
8期1G



「港区ウクライナ避難民支援チャリティコンサート」13期有志



「明学ホールで懇親会」
14期1G

2. 会員の個人活動

3. 各期各グループ活動

地域CCクラブ活動紹介

芝CCクラブ 日常を取り戻すために

芝CCクラブの定例会（毎月第3月曜日）に、当初より芝地区高齢者相談センター、港区社会福祉協議会、港区介護予防総合センター（ラクっちゃん）、東部在宅支援センター等の方々にも自主活動に参加していただいています。



私たち高齢者にとってこれらの人たちとの繋がり、顔合わせ、そして新しい港区の情報をお知らせしてもらうことが大切だと思うからです。困った時、必要となる相談窓口です。私たちにとって、重要な仲間だと思っています。



アドプトの仲間
コロナだろが花は咲く
～てまり坂・本芝公園



三田まち倶楽部・
ういケアなどで
折り紙教室

みなとパーキンソン友の会支援



芝CCは仲間の活動を応援します

（3期 新井 隆治）

高輪地区CCクラブ 復活したコミュニティ・カフェ高輪

高輪地区CCクラブの中心的活動のコミュニティ・カフェ高輪はコロナ感染症の影響で2020年3月から2021年2月まではHUG高輪ミニ講演会を除き中断していました。

2022年4月からは協働運営の高輪地区総合支所協働推進課、高輪区民センターと感染症対策の取り決めを行い、3か所の定期的カフェを再開しました。4月から12月まで高輪区民センター展示ギャラリー前では16回開催し平均29名が参加し、そのうち地域の方が約50%でした。お一人で来られる方にスタッフが話し相手をしています。ゆかしの杜カフェでは8回開催し平均25名が参加し、地域の方は40%でした。マジックや昔遊びを計画し、CC大学生やCCクラブ同期会でも利用していました。HUG高輪ではミニ講演会を中心に8回開催し、各回のテーマに興味を持った方が平均24名参加しました。地域開発、自分の人生経験、ボランティア活動、健康問題まで広いテーマがありました。



コロナ感染者数がまだまだ多い年でしたが、高輪地区CCクラブ総会を6月6日に開催して39名が集まり、議事終了後は2年振りに地域ごとの懇談会で親睦を深めご近所トークを行いました。9月26日には、14期生の歓迎会を含めた交流会を第1部は勉強会として、第2部は懇親会として、コーヒーを飲みながら穏やかな雰囲気で行われました。

区民センターカフェ

懇談会



総会と終了後の地域別懇談会



（7期 太田 則義）

明虹会の活動ハイライト 【地域の特性】を活かした企画で

明虹会は、今年度後半以下の活動を行いました。

- ①10月20日(木)「東京みなと丸で東京湾の現状と役割について」の湾内クルーズを企画し、当日は真っ青な晴天で19名の参加者は非日常の時間を楽しみながらしっかりと勉強しました。



- ②11月6日(日)芝浦アイランド児童高齢者交流プラザで「あいぷらフェスティバル」があり、今年も明虹会有志が手伝いました。カフェブース・うちわ作りなど、地域の子供たちとご家族が参加され、来場者910名と大盛況でした。

- ③11月18日(金)ラクっちゃ研修室で恒例「秋の講演会」を開催しました。第一部は「愛宕下・三田の大名屋敷」(講師12期中嶋博さん)と題し、古地図や広重画の名所江戸百景を使い、様々なエピソードを楽しくお話いただきました。第二部は「フレイル予防と口腔ケア」(講師介護予防総合センター高野信行さん)で実地トレーニングをやりながら講演いただき、参加者は熱心に聞き入っていました。



- ④12月26日(月)赤坂区民センターホールで開催された「ウクライナ避難民支援・チャリティーコンサート」に、明虹会有志が会場整理や運営の支援活動をしました。主催は、明虹会内田眞也さんなど13期生を中心に結成された自主活動グループ「SDGsみなとフォーラム」でしたが、在日ウクライナの皆さんによる珍しい楽器演奏、ラテン、クラシックと日本の楽曲などいろいろで、それぞれがマスターレベルの大変盛大な内容でした。



(13期 石井 知恵子)

3Aクラブ(赤坂・青山・麻布) ~3Aクラブは本年創設10周年~

3Aクラブは本年創設10周年。

ここに至る皆様のご努力に感謝申し上げます。

港区麻布支所、社協、麻布警察、消防署、麻布保育園、麻布区民センター、町会、企業様はじめ関連部署との連携・協働事業を軸に進める方針のもとご支援・ご協力をいただき活動を進めた。

5月、「2022年度定期総会」で新たな体制、活動方針が決定された。最初の写真に総会の模様を示します。「サロン麻布」ははじめ事業・活動の年間計画については、企画部チームを中心に検討立案され役員会で提案、総会で決定される。活動の中心は「サロン麻布」であり、誰でも気軽に集まれるコミュニティカフェをほぼ毎月開催している。

3年間コロナ禍のため、感染症対策を十分取り楽しく実施できた。



次の写真は、港区立みなと科学館にあるプラネタリウムを見学・鑑賞した集合写真。その他、会員の現役時代の美術館での仕事の様子、天文学に精通する会員による「宇宙の神秘」をテーマに壮大な宇宙の話にわくわくしながら聞き入り、会員の指導による折り紙教室や多才な会員による講話等を楽しむことができた。コロナ禍を経験し「人は多くの方々と交わることが大切」と感じた方は多いと思う。多くの方々と会い語り、歌い、絆が保てるサロン活動を大切にしていましょ。



(8期 野村 知義)

■運営委員会報告

2022年度運営委員会は、感染状況を見ながら昨年度の運営方針を受けて、学びの継続、日常を取り戻す活動の支援に注力しました。

コロナ禍の影響が大きく、期やグループの活動が厳しい一年でしたが、運営委員会はリモート参加が定着しました。また、一斉通信の成果で、情報は多くの会員にきちんと伝わっています。5月に明治学院高等学校との連携で「家庭科・総合」の授業に参加し、15の方がご自身を語りました。10月の「みなと区民まつり」には黄色いTシャツを着た運営委員や多くの方がスタッフとして参加し成功につなげました。2月の「活動報告会」にも多くの運営委員、部会員、各期・グループの会員の支援を頂きました。皆さんが集う喜びを感じることで少しずつ日常が戻っていることを実感しています。学ぶ会やHPの充実、クローズアップCCなどの情報の送受信が定着してきたことも大きな力になっています。

港区社会福祉協議会、港区介護予防総合センターそして港区立がん在宅緩和ケア支援センターとの連携事業も復活し、新たな活動が始まり関わるが多くなりました。仲間と語り個人個人の学びや活躍につなげたことにCCクラブ運営部門の実力を感じます。

活動報告会に参加された多くの方から「元気をもらえた」「やっぱり会場参加が出来てよかった」と感想をいただきました。昨日と同じ日は来ません。新しいチャレンジも多くなります。一緒にCCクラブを発展させていきましょう。
(代表 石川啓子)

2023年度CCクラブ 第8回定期総会

ホームカミングデイ (予定)

2023年度の定期総会、ホームカミングデイを以下の日程で計画しています。

日時：2023年6月17日(土) 13:30からを予定
場所：明治学院大学白金キャンパス内とリモート
(Zoom)を予定

- CCクラブ第8回定期総会
- ホームカミングデイ

詳細は決定次第皆さまにお知らせします。

お詫び

CC通信 48号P5の総務部会の写真は前年度の写真でしたので正しい写真を掲載します。



編集後記

「春は名のみ」は早春賦の歌詞ですが、本号が皆様のお手元に届く頃には、春らしい爽やかな青空が見られることと思います。

さて、政府は5月8日からウィズコロナに向けて、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類を、2類相当から5類へ移行することを発表しました。感染拡大による医療体制の混乱が懸念されるころですが、十分な議論のうねり滑に進むことを願い、CCクラブの活動が、リモートでなく、コロナ前のように、マスク無しで、顔を見ながらできることを期待しているところです。
(11期 佐藤 芳男)

(表紙の花の写真は9期平尾恭一さん提供)

チャレンジコミュニティ通信 vol.49 2023年3月31日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

<http://www.minato-ccc.jp>

会報部会

部長 瀬能 正実 (10期)

副部長 境 静子 (10期)

副部長 中満 美紀 (11期)

部員 古橋 義弘 (1期)

部員 太田 則義 (7期)

部員 佐藤 芳男 (11期)

部員 棟方千恵子 (12期)